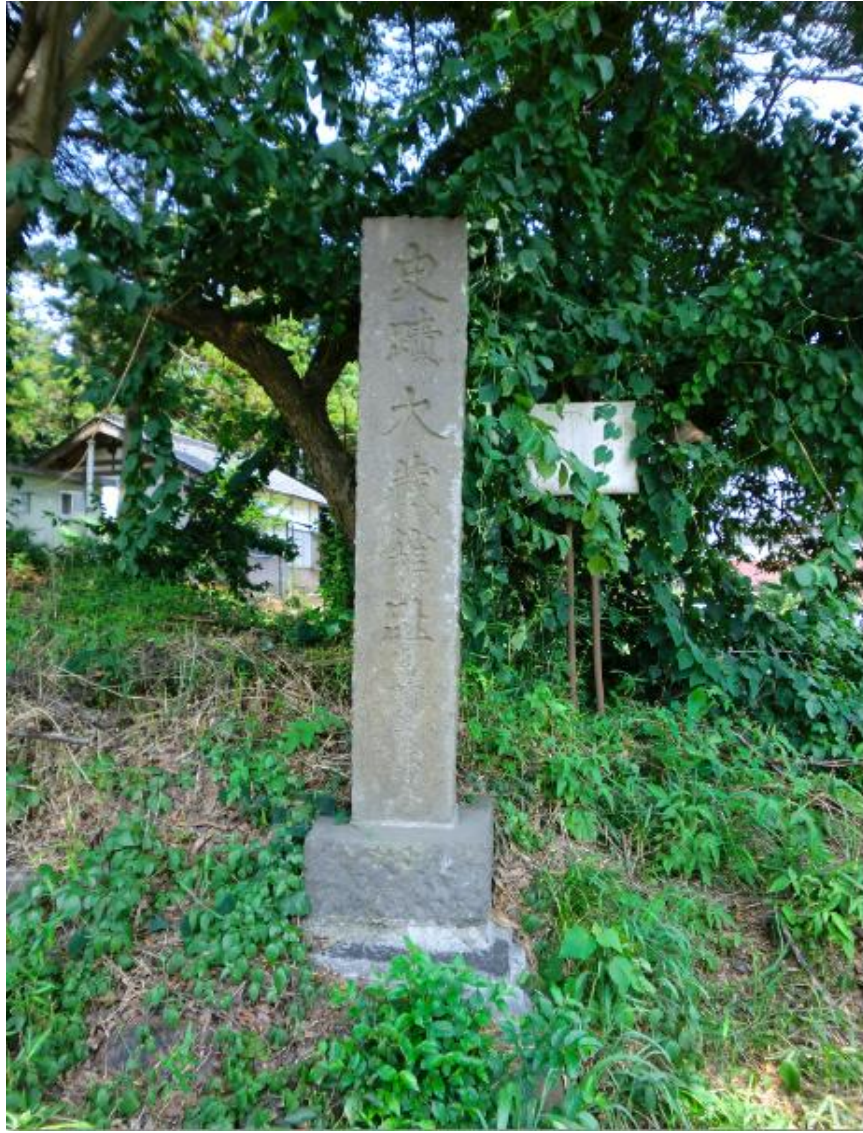


## 大蔵館跡(比企郡嵐山町)

大蔵館跡にある大蔵神社の地は、館跡地でも高くなった土段状になっていて、ここに高見櫓があったと伝えられている





埼玉県指定史跡

大蔵館跡

指定 昭和九年二月三十一日

所在 大宇大蔵堀ノ内

面積 東西一七〇メートル 南北二二五メートル

時代 平安時代末期

大蔵館跡は平安末期の頃、六条判官源為義の次男義賢が、仁平二年（一一五三）から久寿二年（一一五五）まで館を構えていたと伝わり、御所ヶ谷と堀ノ内にわたり土壘や空堀の一部が現存し、県下でも古い館跡といふ。

義賢は近衛天皇東宮時代の侍従の長で、当時この職を帯刀先生と称した。

久寿二年八月十六日、義賢は兄義朝の長男義平に、この地にて討たれた。平治物語では、これを大蔵の戦といい、今より約八二〇年も昔の事である。

尚義賢の遺児駒王丸は、畠山重能・斎藤実盛に助けられ、木曾の中原兼遠の許へ送られ、後年旭將軍木曾義仲として天下に名高を轟かした。

昭和四十九年二月

嵐山町教育委員会



正面が大蔵神社





### 大蔵館跡

大蔵館は、源氏の棟梁大蔵判官源為義の次子、兼光の孫源義貞の居館で、都幾川のその台地上にあった。現存する遺構から推定すると、館の規模は、東西一七〇メートル、南北二〇〇メートル余りであったと思われる。

館のあった名残りの館跡のある地名は、御所ヶ谷戸及び堀之内とよばれる。現存遺構としては、土塁・空堀などがあり、ことと東面一〇〇メートル地点の竹林内（大蔵加助氏宅）には、土塁の残存がはっきり認められる。また、かつては高見櫓の跡もあった。なお、館跡地内には、伝蔵山稲荷と大蔵神社がある。

源義貞は、当地を拠点として武成を高めたり、久寿二年（一一五五年）八月十六日、源義朝の次子である甥の源大義平と討ち合戦した。義貞の次子で、当時二歳の駒王丸は、畠山重能と助けられ、香取別当大盛により木宮の中津原と預けられた。これが、後の旭行軍木曾義仲である。

昭和五十五年三月

埼玉県

# 大蔵館跡

大蔵館は、源氏の棟梁六条判官源為義の次子、東宮帯刀先生源義賢の居館で、都幾川をのぞむ台地上にあった。現存する遺構から推定すると、館の規模は、東西一七〇メートル・南北二〇〇メートル余りであつたと思われ

る。館のあつた名残りか、館跡のある地名は、御所ヶ谷戸及び堀之内とよばれる。

現存遺構としては、土塁・空堀などがあり、ことに東面一〇〇メートル地点の竹林内（大澤知助氏宅）には、土塁の残存がはっきり認められる。また、かつては高見櫓の跡もあつた。なお、館跡地内には、伝城山稻荷と大蔵神社がある。

源義賢は、当地を拠点として武威を高めたが、久寿二年（一一五五年）八月十六日、源義朝の長子である甥の悪源太義平に討たれた。義賢の次子で、当時二歳の駒王丸は、畠山重能に助けられ、斎藤別当実盛により木曾の中原兼遠に預けられた。これが、後の旭将軍木曾義仲である。

## 埼玉県

昭和五十五年三月





大蔵神社社殿



左手は伝城山稲荷



伝城山稲荷



大蔵神社鳥居



右手は土塁の跡であろうか

東面に回ってみる



こちらからは伝城山稲荷の鳥居がある



こんなものも





西側から境内敷地を見る



付近にはこんな高まり(土塁の跡であろうか)が見られる





埼玉県指定  
史跡

# 大蔵館跡

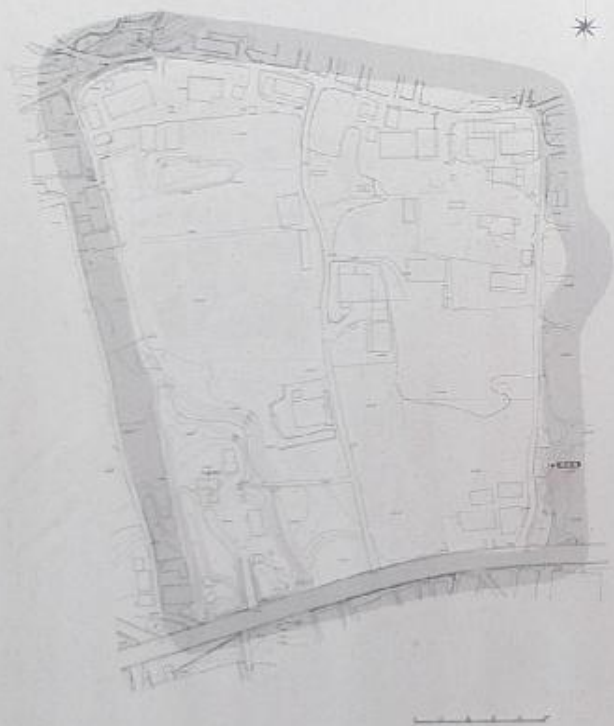
昭和九年三月三十一日指定

大蔵館跡は、平安時代の末期、帯刀先生源義賢によって築かれたと伝えられている。

館跡の四隅にそれぞれ土塁、空堀が残っており、これから推定される館の規模は、東西一七〇〜二〇〇メートル、南北二二〇メートルである。また館跡の内外には「御所ヶ谷戸」「堀之内」「高御蔵（高見櫓）」など館のあったことを示す小字名もある。

館の東方一〇〇メートルには、鎌倉街道が南北に通過しており、館の入口は街道に面して東方に設けられている。館の中核は、南西の一画に一段高く土盛りされている現在の大蔵神社付近と考えられるが、現存する大蔵館跡の規模は、必ずしも義賢当時のままとはいえない。嵐山町周辺は、南北朝〜室町、戦国時代にかけて戦乱の絶えなかった地域であり、そうした時代にも軍事上の重要拠点として幾度となく造りかえられて利用されていたようである。

大蔵館跡実測図



昭和六十一年三月

埼玉県教育委員会  
嵐山町教育委員会

インターネットより



インターネット/余湖くんのお城のページより

参考ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/ranzanmati.htm>

